様式第９号（第５条関係）

政務活動に係る活動報告書

会　　派　　名	日本共産党議員団
活　動　項　目	先進地視察
年　　月　　日	平成３０年１１月１２日
参　加　者　名	守岡　等、井上　学
視察（研修）地	福島県会津美里町
目　　的	認知症にやさしいまちづくりを学ぶため
調査（研修）項目等	認知症サポート会議の取り組みについて
概　　要	福島県会津美里町は、人口約 20,500 人。65 歳以上の高齢化率が 36.5%。要介護認定率が 20.9%。認知症高齢自立度Ⅱ以上が 1,098 人で認定者全体の 69.8%という町です。 認知症にやさしいまちづくりとして、一番力を入れていることは「認知症サポート会議」の取り組みです。このサポート会議は、広報部会、研修教育部会、認知症サポーター部会の 3 つの部会に分けて具体的な活動を展開しています。 特徴的な取組として、認知症サポーター部会の取り組みでは、認知症サポーター養成講座の修了者を対象に、ステップアップ研修を実施し、26 名の修了者が認知症カフェなどでボランティアとして活躍しています。 また、住民の方に向けた認知症対策として、認知症の方が保護されたときに身元がわかる専用コードが印刷されたシールにより家族や支援者に連絡できる「かえるネットシステム」や認知症予防教室などが取り組まれています。あわせて、「認知症見守りサポート訓練」を行っております。取組みを通じて、地域内でのつながりに着目して、地区単位で認知症行方不明者の早期発見や声かけ、行方不明者発生時の連絡体制の確認、整備を実施しています。具体的には、劇による認知症学習を行った後、認知症役の役者が実際町に出て地区ごとに捜索・声かけ訓

	練を実施します。認知症のパターンに応じた3種類の役者を設定するなど、かなり本格的な訓練になっています。
所　　感	本市でも、認知症サポーター養成講座が取り組まれていますが、サポーターが具体的に活動できるようにステップアップ研修を実施し、実際にボランティアとして活躍できるような場の提供が必要と感じました。 様々な取組により住民一人ひとりが認知症に対する理解を培い、たとえ認知症になっても地区全体でフォローする体制が重要だと感じました。 認知症にやさしい町は、老若男女すべての市民にとって生活しやすい町だと考えます。こうした視線からも、本市でも「認知症サポーターのステップアップ研修」、「認知症見守りサポート訓練」に取り組み、町ぐるみで認知症の方をサポートできる体制の強化が必要だと感じました。 以上